

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和4年7月1日現在）

法人名	(福) 神奈川県総合リハビリテーション事業団					
設立年月日	昭和48年2月2日	代表者名	理事長 小宮 重寿			
所在地	神奈川県厚木市七沢516		電話番号	046-249-2240		
基本財産等	27,000,000	円	県出資額	10,000,000	円	県出資率 37.0 %

### 2 法人運営における現状の課題

(1) 専門職員の確保と育成 リハセンターの病院及び福祉施設における重度・重複障害者の家庭復帰など、質の高いサービスを継続して提供し、その役割・機能を発揮し続けるためには、医師をはじめとする多くの専門職の確保と育成が課題である。
(2) 新たなリハビリテーションサービスの提供 県産業労働局が進める「さがみロボット産業特区」における実証実験フィールドとして「ロボットの開発」への協力、県スポーツ局が進める「障害者の運動促進に向けた取り組み」への協力、県福祉子どもみらい局が進める障害者の「自動車運転再開に向けたプログラム構築」への協力、県健康医療局とともに進めている「筋電義手の処方訓練」など、県立病院として幅広く行政の課題に協力していく。
(3) 安定した経営基盤づくり リハセンターが機能を発揮するためには、専門職員の確保・育成に加え経営の安定化が必要である。センター全体の自己収入のうち8割を占める病院の利用率の目標と実績に乖離が生じており、患者確保、利用率の向上が課題である。 また、新型コロナウイルス感染症の拡大や社会情勢等により生ずる社会的危機や経済的危機等の不測の事態に備え、収支分析の強化を図るとともに、事業費の効率的な執行等、支出を減少させ、状況変化に対応できる経営基盤の確立が必要になる。
(4) 危機管理対策の強化 今般の新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめ、大規模災害など、今後いつ発生するか分からない危機に備え、医療・福祉・教育の施設として、リハセンターの危機管理体制を強化する必要がある。
(5) 内部管理体制の強化 700人以上の職員が在籍するリハセンターを運営するにあたり、法人のガバナンスの強化を図り、関係法令に適切に対応するとともに、より健全な事業運営に向けて取り組むために、不正行為や不祥事などのリスクを減らす必要がある。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

#### ● 福祉施設機能の充実

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ア) 1	七沢学園(児童) 家庭復帰率	%	88.9 ( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	家庭復帰率の指標としている高等部3年生の進路については、5名中4名が家庭復帰した。			高校生への進路指導に関しては、高等部2年生から協議を始めたことによる、早めのアプローチの成果が見られたため、今後も引き続き進路の準備を早めに取り組む。				
	備考							
令和3年度退所者9名中、 家庭復帰8名、施設移行1名								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ア) 2	七沢学園(児童) 強度行動障害児受入	人	1.0 ( 2.0 )	( 2.0 )	( 2.0 )	( 2.0 )	( 2.0 )	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>強度行動障害児は全県で約150名、県央地区にその18%程度が居住しているとされるが、施設入所はそのうちの6割程度である。最近は施設に入所せず、地域で支援も受けながら、在宅やグループホームにおいて居住する方も増えており、そうした傾向は今後とも続くと考えられる。</p> <p>※平成29年度神奈川県強度行動障害実態調査結果より。なお、同調査は3年に一度実施されているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症のため実施されていない。</p>			<p>対象となる児童の数が少ないため、目標人数の確保には至っていないが、こうした児童の受け入れの要望があった場合には、しっかりと対応していく。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ア) 3	七沢学園(児童) 集中療育受入	人	4.0 ( 8.5 )	( 8.5 )	( 8.5 )	( 8.5 )	( 8.5 )	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>新型コロナウイルス感染予防の観点から、感染予防に考慮した対応をせざるを得なかったことや、この2年間で集中療育の積極的な活動紹介をしてこれなかったことにより、4名の受け入れにとどまった。</p>			<p>世の中の情勢も変化し、放課後デイサービス等、県下の福祉サービスも充実してきている。今後も感染状況を考慮した対応をせざるを得ないが、児童相談所等に集中療育の活動を紹介するなど協力を願い、利用者の確保に努めていく。</p>				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(イ) 1	七沢学園(成人) 家庭復帰率	%	100.0 ( 61.0 )	( 61.0 )	( 61.0 )	( 61.5 )	( 61.5 )	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	<p>家庭復帰のための相談支援事業所や日中活動の事業所(就労継続B型事業所等)と連携を取りながら、丁寧に準備を行ってきたことにより、目標を達成できた。</p>			<p>退所後の生活を計画的に準備するとともに、就労に向けて事業所と連携し、利用者の希望が実現するような支援を継続する。</p>				
	備考							

令和3年度退所者10名中、家庭復帰2名、グループホーム移行8名

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(イ) 2	七沢学園(成人) 医療重度者受入	人	5.0 ( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	医療との連携を図り、安定した支援を継続したことで、令和3年度も目標を達成できた。			今後とも連携を継続する。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(イ) 3	七沢学園(成人) 強度行動障害者受入	人	6.0 ( 6.0 )	( 6.0 )	( 6.0 )	( 6.0 )	( 6.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	強度行動障害者の行動特性に応じた支援を展開したことで、令和3年度も目標を達成できた。			引き続き、相談支援事業所と行動障害がある利用者を受け入れていく。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ア) (イ) 4	七沢学園(児童・成人) 満足度調査評点	点	3.4 ( 3.1 )	( 3.1 )	( 3.1 )	( 3.2 )	( 3.2 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	第三者委員の相談を毎月実施しており、利用者に周知している。また、半年に一度、苦情解決連絡会を実施して情報交換を委員同士でも行っている。日々の利用者支援についても、虐待防止、身体拘束、意思決定支援等組織的に職員に理解を促す機会を設け、利用者支援の質の向上に努めている。			第三者委員の受け入れや組織内での活動の活性化を継続していく。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ウ) 1	七沢療育園 超・準超重症児受入	人	11.6 ( 10.0 )	( 10.0 )	( 10.0 )	( 10.0 )	( 10.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	令和3年度も新型コロナウイルス感染予防対策でショートステイの利用者を制限したため、令和2年度比で受け入れ数は減少したが、目標値を達成することができた。			今後は新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、短期ベッド利用枠を増やし運用していく予定である。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(ウ) 2	七沢療育園 満足度調査評点	点	3.8 ( 3.7 )	( 3.7 )	( 3.7 )	( 3.7 )	( 3.7 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	令和3年度もコロナ禍であり、令和2年度同様、家族との面会を制限せざるを得なかったが、リモート面接や写真、手紙で日常生活を伝える工夫を行ったことが評価につながったと思われる。			今後も家族との丁寧な交流を継続する。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(エ) 1	七沢自立支援ホーム 家庭復帰率	%	89.5 ( 91.0 )	( 91.0 )	( 91.0 )	( 91.0 )	( 91.0 )	B
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	肢体不自由部門は27名中25名、視覚障害部門は11名中9名と、利用者のほとんどは在宅復帰をしているが、令和3年度は医療機関への入院、施設への移行者等もあり、目標をわずかに達成しなかった。			今後もリハビリテーション病院と連携し、各種リハビリテーションの提供を通じて社会復帰・家庭復帰を目指す。				
	備考							
肢体不自由部門：92.6% 視覚不自由部門：81.8%								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
(エ) 2	七沢自立支援ホーム 満足度調査評点	点	3.6 ( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.0 )	( 3.1 )	( 3.1 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	第三者委員との相談機会を設定し、その内容を支援に反映させている。また、接遇や呼称を常に意識するよう心掛けている取組が評価され、目標を達成することができた。			今後とも、利用者支援の質を上げる努力を継続する。				
	備考							

### ● 病院機能の充実

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
1	神奈川リハ病院 家庭復帰率	%	87.5 ( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	( 81.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	患者の社会復帰を旨とする組織として高度なリハビリテーション医療を提供し、患者の地域生活への移行を支援している。 高い家庭復帰率を維持するための指標として回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを算定し、それを維持している。			地域生活への移行については患者や家族の事情に応じて様々な要望がある。 家庭生活への復帰のほか、患者・家族の要望に沿った退院後のあり方を検討し、実現するために地域連携の取組を強化する。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
2	神奈川リハ病院 満足度調査評点	点	3.6 ( 3.4 )	( 3.4 )	( 3.4 )	( 3.5 )	( 3.5 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	利用者からの要望や苦情については総合相談室にて対応を行い、患者支援（サポート）会議を通し回答している。 意識共通化のため、内容を病院運営会議にて提示し、各所属の科長クラスと共有することで全体理解を深めている。			新型コロナウイルス感染症による環境の変化により寄せられる要望や意見の内容は様変わりしている。 面会制限や外出制限による影響は大きく、少しでも患者・家族の不安感と不自由な環境を解消するため、臨機に対応していく。				
	備考							

## 【収支健全化に向けた経営改善】

### ● 病院の利用率

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
1	神奈川リハビリテーション病院 入院患者利用率	%	74.7 ( 90.0 )	( 90.0 )	( 90.0 )	( 90.0 )	( 90.0 )	C
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症による影響は大きく、急性期病院の病床減少、感染への不安感や移動制限、面会制限は患者の入院敬遠につながった。また、患者を感染から守るために行った入院前検査の実施、患者の個室隔離などの徹底した院内クラスター対策は入院患者の受け入れ数に影響した。			院内クラスター対策の実施により病院の稼働そのものに影響するような感染の拡大は起きていない。対策は維持し、重点医療機関協力病院としての下り搬送患者を積極的に受け入れ、新型コロナウイルスワクチン接種など県内の感染症対策に引き続き協力する。入院患者の受け入れは感染の収束を前提に地域連携室により強化していく。				
	備考							

### ● 福祉の利用率

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
2 ①	七沢学園(児童) 利用率	%	88.8 ( 98.0 )	( 98.0 )	( 98.0 )	( 98.0 )	( 98.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	児童相談所との調整において、4月に入所を予定していた利用者26名のうち2名がキャンセルになり、当初の予定より2名減でスタートした。 年度途中で他の児童施設より受け入れを図ったものの、年度末にかけても退所者が生じ、目標を達成できなかった。			令和4年度は3年度に比べ、1名増でスタートすることができた。児童相談所との連携を強化して、利用者受け入れの準備を進める。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
2 ②	七沢学園(成人)利用率	%	96.6 ( 93.1 )	( 93.1 )	( 93.1 )	( 93.1 )	( 93.1 )	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	学園成人においては、生活介護、生活訓練事業において、高い利用率を維持することができた。			今後も生活訓練事業ではスムーズな入所、退所計画を立てて展開していく。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
2 ③	七沢療育園利用率	%	89.6 ( 97.0 )	( 97.0 )	( 97.0 )	( 97.0 )	( 97.0 )	B
	自己評価(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	定員40名のうち、短期入所は1名+空床部分としているが、短期入所者の受け入れを十分に行うため、実態としては短期入所枠を拡大して運用している。その中で、短期入所については、新型コロナウイルス感染予防対策で一定の制限を行ったため、利用者数が伸びず、目標を達成することができなかった。			利用者のニーズを考えると、引き続き短期入所枠は一定程度確保して運営する必要がある。今後も、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえつつ、長期入所と短期入所がバランスよく受け入れられるよう調整していく。				
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	3年度自己評価
2 ④	七沢自立支援ホーム利用率	%	64.9 ( 94.1 )	( 94.1 )	( 94.1 )	( 94.1 )	( 94.1 )	C
	自己評価(目標未達の場合はその理由)			今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)				
	新型コロナウイルスの感染への不安や、令和3年度も感染予防のために、外泊や外出の制限を継続したことから、利用率が減少した。			肢体不自由部門においては、近隣の回復期病院との連携を強化する。また、視覚障害部門においては、当院の眼科ロービジョンクリニックや地域の眼科との連携を深め、利用者の確保に努める。				
	備考							

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

- 令和3年度の経営改善目標の達成に向けた取組実績等の自己評価は、年度モニタリングの評価の目安を参考に評価した。目標値に対して達成率100%以上をA、85%～100%未満をB、85%未満をCとした。
- 令和3年度は、神奈川リハビリテーション病院において、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、中和抗体療法の実施、高齢者及び医療従事者、さらに福祉施設の入所者に加え小児を対象にしたワクチン接種の実施など神奈川県感染症拡大防止対策による施策に積極的に協力を行った。  
また、感染リスクを見過ごせない中、感染制御室・地域連携室を中心に患者の受け入れを行い、テレビ会議システムを利用した事前の入院相談を行うなど、感染対策に努めた上で、利用者サービスを低下させずに患者確保を行う取組に注力した。また、リハビリ訓練では感染対策に充分留意した上で、入院患者だけではなく、外来患者に対しても70%程度の割合で訓練を実施した。
- 福祉施設においても、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により感染予防対策を慎重に取り組み、運営に臨んだ。このことにより、短期入所及び通所利用の制限を継続せざるを得ず、施設ごとのばらつきはあったが、全体としては利用率80%を上回った。しかしながら、職員の感染予防対策及び利用者の協力により、幸い施設内での利用者感染及び施設内クラスターは発生することなく、利用者の安全な生活を維持・継続することができた。
- 病院及び福祉施設の利用者満足度は、施設内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努め、時節に応じて利用者に対し外泊・外出の制限等の協力を求めたが、多くの利用者に理解をしていただき、令和2年度より若干満足度は向上し、目標値に対してはすべての項目において達成することができた。
- 令和3年度は病院・福祉施設ともに感染状況の変化を見極めつつ、感染症防止対策を講じながら事業運営に取り組む1年となったが、令和4年度は患者・利用者の安心安全を念頭に、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての機能を発揮したうえで、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持向上に取り組む。

#### 5 取組実績等についての総括（所管課）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、入院患者や施設入所者に入所前の健康チェックや外泊・外出の制限等を行った結果、利用率が前年度を更に下回る厳しい状況となったが、その一方で、患者満足度が高評価を維持したことや、センター内で大規模なクラスター等を発生させずに施設運営を行ったことは評価に値する。
- また、リハ病院においては、前年度に引き続き、帰国者・接触者外来の設置やワクチン接種を継続的に行ったほか、重点医療機関協力病院としての役割を拡充させるなど、地域の感染症医療に積極的に協力している。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、今後も、施設における感染症の拡大防止に細心の注意を払いながら、引き続き施設運営をお願いしたい。
- 今後とも、県立施設としての機能を発揮するため、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、病院が取り組む地域連携の推進などにより利用率の向上を図り、人員配置や業務の効率化を進め、収支の健全化と医療・福祉の質の向上の双方に取り組んでいただきたい。

#### 6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
B	コロナ禍及びポストコロナ禍での取組を継続し、目標達成を目指していただきたい。